

米子市長
野坂 康夫 様

平成26年1月 27 日

米子市女性団体連絡協議会
会長 加藤 洋子
683-0017 鳥取県米子市宗像 455-22
電話 090-5378-0389 Fax 0859-26-4787

原子力発電所の再稼働は慎重に、安全に留意したエネルギー政策への転換を

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が発生し、福島原発事故が起きました。福島原発事故の後、私たちは生活を根本から見直さなければならないと思います。事故から3年を迎えようとしていますが、福島原発事故は収束にはほど遠い状況であり、今も放射能の拡散や汚染水の流出が続くなど、深刻な状況で、廃炉作業にもとりかかれないう状態です。

当会は島根原発から30kmの圏内に住み、もし島根原発が福島原発のような事故を起こした場合、放射能はどのように拡散されるのか、事故発生後の1年後から2年をかけ、計4回、ヘリウムガス入りの風船を200個ずつ飛ばし、風の調査を行いました。〈別紙参照〉

福島では40km離れている飯館村が放射能汚染のホットスポットになりました。当会が行いました風の調査では、雨が降れば地元、遠くは石川県、愛知県、京都府、兵庫県に飛び、気象条件によって、放射能がどこの地域に飛ぶかは予測できず、原発からどんなに離れていても放射能はどこにでも拡散されると風船を飛ばしてみても改めて強く感じています。原発は一度事故が起きると「ある日突然、生活も生命も奪ってしまい」決して安全とは言えません。今も福島原発事故以来、未来を担う子どもたちの環境は決して安心・安全とは言えず、先が見えません。特に外遊びが制限された福島の子どものために肥満児が増え、何より痛ましいのは甲状腺がんが発症していることです。(2013年11月現在。発症26名。疑い32名。)

何の責任もない子どもたちに為政者、電力関係者はどう責任を果たすのか。これから子どもを産みたい女性に対して、原発を安全だと言えるでしょうか。

原発再稼働が原子力規制委員会に申請される中、当会の風の調査が再稼働の歯止めになることを強く、要望します。